念ずれば花ひらく
玉名市立玉南中学校便り
令和８年６月２９日（月）
第５号　文責：森川孝巳

『時を守り、場を清め、礼を正す』

これは、教育哲学者の森信三さんの言葉です。この言葉は、学校はもとより企業理念や社会人教育など多方面で活用されている有名な言葉です。

『時を守り』は**「遅刻をしない。期日を守る」**ということです。定刻までに準備を整え来るべき時に備えて心を静めて開始を待つということです（本校は８時１０分正門通過・８時１５分朝自習開始、授業２分前着席・１分前学習）。また、決められた期日までに、宿題や自学などの提出物を出し終えるということでもあります。『時を守る』その先には、必ず相手がいます。『時を守る』ことで相手の時間を尊重する思いやりにつながるのです。

『場を清め』は**「整理整頓をし、掃除できれいにする」**ということです。「整理上手は仕事上手」という言葉があるくらい整理整頓は仕事をするうえで大切なことです。トイレのスリッパをそろえることも自宅玄関の靴をそろえることも『場を清め』ることのひとつです。また、掃除は心がけひとつで自分の心も磨くことができます。本校でも五つの心（思いやり・気づき・謙虚・律する・感謝の心）を育てるために無音清掃に取り組んでいます。自ら気づき行動する力が身につくと、自然と相手からの信用や信頼を得ることが増えてきます。たかが身の回りの整理整頓や掃除であっても心がけ次第で気づく心や思いやりの心そして、物を大事にする心が育ちます。たかが整理整頓されど整理整頓。たかが掃除されど掃除。自分で自分の心を育てることができる大事な時間なのです。

『礼を正す』は**「挨拶や返事がきちんとできる」**ということです。その挨拶は自分から先に行おうとすることが大切で、目上の人ならなおさらです。そして、笑顔で爽やかに相手が気持ちよく受け取ってもらえるような挨拶が相手に対する礼儀につながります（校門一礼、お客様への立ち止まって挨拶に取り組んでいます）。また、名前を呼ばれたら「ハイ」と気持ちのよい返事をする素直さを身につけることは社会人となった時に必ず役に立ちます。

この三つの言葉『時を守り、場を清め、礼を正す』に共通するものは「相手を思いやる」気持ちです。人は一人では生きていけません。誰もが誰かに支えられ、誰かを支えています。だからこそ、この中学生の時期に、社会的自立の基礎である『時を守り、場を清め、礼を正す』を身につけ、自分の人生を切り拓いていく力になってくれればと願っています。

「ひとつ拾えばひとつだけきれいになる」　（著書　鍵山秀三郎）

何事を始めるにも、大切なことは一歩を踏み出す勇気。まずこの一歩を踏み出さなければ前に進むことはできません。どんなに優れた考えでも、実行されなければ勝利の女神も微笑んでくれません。スタートしなければ、ゴールもないのです。よいと思ったことはすぐ行動する。悪いと思ったことはすぐやめる。この実行力が人生を左右します。具体的には足元のゴミを拾う実践から始めることです。ゴミを目にしたら、腰をかがめてサッと拾う。この実践を続けているだけで、気づきに対する直感力が研ぎ澄まされてきます。同時に、突発的な問題に対する判断能力が高まってきます。逆にゴミを捨てる人は、捨てる一方。まず、拾うことはしないということです。ゴミを拾う人は無神経に捨てることもしません。この差は年月が経てば経つほど大きな差となって表れてきます。人生はすべてこうしたことの積み重ねですから、ゴミ一つと言えども小さなことではありません。第一、足元のゴミ一つ拾えぬほどの人間に何ができましょうか・・・。